

マクドナルドカップ・川内大会で第三位！

平成11年7月31日(土)から3日間、第5回鹿児島県夏季学童軟式野球大会が川内市で開催されました。今回は昨年より4チーム多い43チームの出場がありましたが、大田チャレンジャーズは見事第三位に入りました。1回戦は不戦勝、2回戦は轟ファイターズ(川内市)に18対0で圧勝、3回戦は三船小野球スポーツ少年団(始良町)に4対3の逆転勝ち、4回戦は青葉小野球スポーツ少年団(国分市)に5対2で快勝し、ベスト4に入りました。そして、最終日は川内野球場で準決勝が行われ、練習試合ではコールド勝ちしたことのある帖佐小野球スポーツ少年団(始良町)が相手でしたが、惜しくも4対7で負けました。優勝は昨年の覇者・川内サンダースでした。

1回戦: 大田チャレンジャーズは不戦勝、2回戦で轟ファイターズ対岩川小野球スポーツ少年団(大隅町)の勝者と対決する。岩川は春の県大会(枕崎市)で準優勝の強豪チーム(全国大会出場予定)で、今回も上位入賞を狙っていたが、接戦の末、一点差で轟ファイターズにまさかの敗退を喫する。打倒岩川に燃えていた大田は肩透かしを食ったような感じであったが、轟ファイターズと初戦を戦うこととなる。

2回戦: 野間島公園、7月31日(土)14時30分～16時30分

チーム/回	1	2	3	4	5	6	7	計
大田チャレンジャーズ	4	3	0	2	9			18
轟ファイターズ	0	0	0	0	0			0

初回、トップバッターの福元(誠)が四球を選び、すぐに盗塁。二番修行(真)がライト前ヒットの間に福元がホームを駆け抜け先取点を取る。三番吉川(大)サードライナー、四番椎原センターフライで倒れたが、五番新森が左中間にエンタイル・ツーベースで2点目を叩き出す。その後、六番修行(耕)が四球、七番新地がレフト前ヒット、八番中村がセンター前ヒットで2点を追加し、初回一挙に4点を挙げる。2回には、吉川(大)のセンターオーバーのラ

ンニングホームラン、椎原のレフト縁石(ホームから80m程度)を超えるホームランで3点を追加する。その後も攻撃の勢いは止まらず、前田(隆)のランニング・ホームランを筆頭に、鎌田、新森、福元(誠)、修行(耕)のシングルヒットが効果的に出て、大田チャレンジャーズ始まって以来の大量18点を挙げた。守っては、エース新森が3回、二番手吉川(大)が1回、三番手福元(誠)が1回をノーヒットに押さえる完封リレーで飾る。

3回戦: 総合運動公園多目的グラウンドAコート、8月1日(日)10時20分～11時50分

チーム/回	1	2	3	4	5	6	7	計
大田チャレンジャーズ	0	1	0	0	1	0	2	4
三船小野球スポ少	0	0	1	0	2	0	0	3

初回、福元(誠)がセフティーバントで出塁、すかさず盗塁を決めたかに思えたが、判定はアウト。この試合では、3回程、タイミング的に十分セーフの盗塁がアウトの判定になり、苦しい試合展開になった。1回裏の三船の攻撃は、捕手椎原の打撃妨害(二番打者のバットが椎原のミットに当たる)でランナーを出すものの、投手新森の踏ん張りで0点に押さえる。しかし、打撃妨害時椎原は、左手中指を打撲したが、激しい痛みを押さえてプレーする。2回は、四番椎原のセンター前ヒット、新森の四球後、修行(耕)が送りバントで1死二三塁のチャンスを作る。七番新地が、ライト前ヒットで先取点を取る。3回は修行(真)が、4回は椎原が共にセンター前ヒットを打つが得点につながらず。3回の三船の攻撃は、新森が二者連続三振で2死を取るが、次の一番打者にセンターライナーを打たれる。センター新地が今一歩及ばずランニングホームランで同点とされる。5回の大田の攻撃は、四球で出た新地が代打海老原のサードゴロの間に三塁へ進塁し、2死から福元(誠)がセンター前タイムリーヒットで1点を挙げる。しかし、三船は先頭打者のレフ

トオーバーの2塁打、センター前ヒット、ショート内野安打で2点を挙げ、逆転する。6回の大田は2死から椎原のセンター前ヒットが出るが後続がなく0点に終わる。今大会は、80分を超えて新しいイニングに入らないという規則で、6回の大田の攻撃が終了した時点で72分経過しており、もし三船の6回裏の攻撃が残り8分を超えたら試合終了の状況であった。新森―椎原のバッテリーに時間が少ないことを伝えた所、新森の踏ん張りで三者凡退で0点に押さえ、残り時間2分のギリギリで7回に入ることができた。7回の大田の攻撃は、1死後七番新地がセンター前ヒットで出塁、続く中村が四球を選んで、ワイルドピッチで1死二三塁とする。九番前田(隆)にスリーバントスクイズを出す、高めに外されてファールとなり2死二三塁。続く一番福元が、内野フライを打上げ、万事休すかと思われたが、ちょうど二塁ベース後方で、ショート・セカンド・センターの間に落ちる執念のヒットとなる。この間に、新地に続き中村が好走塁で2点を挙げ、ついに逆転をする。7回の三船の攻撃を新森が、サードゴロ、ショートフライ、三振で決めて試合終了。

4回戦: 総合運動公園多目的グラウンドAコート、8月1日(日)13時30分～15時00分

チーム／回	1	2	3	4	5	6	7	計
青葉小野球スポ少	0	2	0	0	0	0		2
大田チャレンジャーズ	1	2	1	1	0	×		5

大田は吉川(大)が先発、初回青葉の攻撃は、先頭打者が四球で出るが、吉川の牽制球でアウト、2死後左中間に三塁打を打たれるが、四番打者をキャッチャーフライに討ち取り0点に押さえる。裏の大田の攻撃は、福元(誠)が四球、修行(真)が死球で出塁、三番吉川がスクイズを決め、先取点を取る。2回の青葉は、サードへの内野安打と死球でノーアウト二・三塁のチャンスに内野ゴロ、スクイズで2点を挙げ、逆転する。しかし、大田は裏の攻撃で、五番新森がライト線へのヒット、六番新地の右中間ヒットでチャンスを

広げ、九番前田(隆)のセンター前タイムリーヒットで同点に追いつき、満塁から一番福元(誠)が四球を選び逆転する。3回の青葉の攻撃を吉川が三人で討ち取り、4回から福元(誠)がリリーフする。福元は、打たせてとる危なげないピッチングで残り3回を0点に押さえる。一方、大田の攻撃は、3回に相手投手の四死球に乗じて1点を取り、4回には代打海老原がレフト前ライナーのヒットを打ち、これがワンバウンドでレフトの頭上を超え、ランニングホームランで1点を追加、試合を決定付けた。

準決勝: 総合運動公園野球場、8月2日(月)8時30分～10時00分

チーム／回	1	2	3	4	5	6	7	計
大田チャレンジャーズ	0	0	0	1	2	1		4
帖佐小野球スポ少	0	5	2	0	0	×		7

大田は新森、帖佐は5年のエース増満の先発で試合が始まる。1回の大田は、初めて一番に入った新地、二番修行(真)が増満の速球にあわず連続三振、三番吉川はピッチャーゴロに終わる。裏の帖佐の攻撃は、先頭打者がレフト前ヒットで出るが、新森が二番を三振に討ち取り、捕手椎原が三塁盗塁を刺し、0点に押さえる。2回の大田は、四番椎原の四球と盗塁、五番新森のセンターフライ後、六番修行(耕)の送りバントでチャンスを作るが、七番中村が三振に討ち取られ0点に押さえられる。裏の帖佐の攻撃は、新森が五番打者を三振にとつたが、次の打者がセカンドゴロ・エラーで出塁、続く二人の打者に連続四球で、1死満塁のピンチになる。九番打者のサードゴロ・エラー、一番打者と三番打者のレフト前ヒットで5点を取られる。3回の大田の攻撃は、八番森満・九番前田(隆)が連続三振、一番新地が内野ゴロで三者凡退に終る。

裏の帖佐の攻撃は、1死後から、四球にヒットを3本絡めて2点を奪う。4回の大田の攻撃は、二番修行(真)が四球で出塁後、ワイルドピッチで捕手が後逸する間に、二塁から一挙にホームインの好走塁で1点を返す。4・5回の帖佐の攻撃は、新森の踏ん張り内外野の堅い守りで0点に押さえる。5回の大田は、修行(耕)のライト線三塁打、続く中村のセンター前タイムリーヒットで1点を返す。海老原・鎌田の代打攻勢が共に三振に討ち取られるが、新地の振り逃げの間に更に1点を返す。6回は、吉川(大)のレフトオーバー2塁打、椎原はファーストフライに倒れたが、続く新森がサードゴロエラーを誘い出塁、この間に吉川がホームインで1点返す。1死一塁で修行(耕)が打順でランエンドヒットのサインが出るが、センターへ抜けそうな痛烈なライナーを相手投手が好捕し、ダブルプレーで試合終了。

<試合を終わって(監督より一言)>

マクドナルドカップ・川内大会は今年で3回目の出場である。一昨年は、大田チャレンジャーズ一期生(現中学二年)が出場し、高田少年野球部(川辺町)に延長戦の末サヨナラ負けを喫し、昨年は一回戦で強豪川内サンダースに0対27の屈辱の大敗を経験した想い出の大会でもある。そして、今年はいよいよ初勝利を目標に大会に臨んだが、誰もベスト4まで進出するとは予想していなかった。

三日間とも川内までの早朝出発の日帰り強行軍で、特に、準決勝当日は台風の接近で、9時試合開始予定が急遽30分早められ、早朝5時30分に役場前出発、吉村さん運転のバスで2時間揺られて川内に到着。練習もそこそこに試合という慌しさで、試合の後半にやっと大田の力が発揮された試合であった。電光掲示板のある本格的な野球場での試合は新チームにとっては初めてで、やはり緊張のためか、試合前半は今までになかったエラーが連続して出てしまった。また、昨日まで活躍していたキャプテンで一番ショート福元(誠)とムードメーカーの福元(拓)が都合により欠場したことも大きかった。しかし、今回の川内大会を通じて、部員一人ひとりの力が一試合毎にレベルアップしており、チーム結束力が出てきたと思う。また、代打で一度出場した山内をはじめ、代打一番手の海老原、守備要員の森満と福元(拓)、そして、今大会は出場する機会はありませんでしたが、吉川(成)、前田(飛)、吉村、平窪の部員は、一所懸命にランナーコーチやバット係をやってくれました。こういう姿を見ていると来年がまた楽しみです。

最後になりましたが、福元育成会長、吉川・森満副会長をはじめ、多くの保護者の方々に支援されてはじめて今回のような優秀な成績を残すことができました。また、原澤コーチには試合中に適切な部員への指示をして頂き感謝しております。そして、ご協力いただいた皆様に衷心より御礼申し上げます。8月後半の夏合宿、練習試合や始良地区予選大会(9月12日)で今後ともお世話になりますが、部員一同、秋の県大会出場を目指して練習に頑張りますのでよろしくご支援お願い致します。